

[中吐]ヨンデリス療法

外科
処方医:
適応症: 軟部組織腫瘍
3週間を1クールとし投与を繰り返す

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
ヨンデリス	●																					●

身長: _____ cm _____ kg 体表面積 _____ m²

[投与スケジュール] (_____ クール目)

Day1(月 日)~DAY2(月 日)

本管		側管	
薬剤名	投与量		
生食注シリンジ10mL ポート疎通確認 [フラッシュ]	2本	ヨンデリスは冷所で希少薬のため運用管理が2回目より異なります。施行の連絡後に発注体制。 ①病棟→薬剤部へ施行の連絡②卸へ発注 ③納品後、薬剤部→化学療法室へ前処置開始の連絡④調製、送付 注意: アプレピタントは回避。(CYP3A4阻害作用でヨンデリスの作用・副作用増強に働く)	
生食100mL グラニセトン注3mg デキサート注 [30分 中心静脈より点滴静注]	1瓶 1管 16.5mg		
生食50mL [5分 中心静脈より点滴静注]	1管		
生食500mL ヨンデリス 1.2mg/m ² [24時間 中心静脈より点滴静注][壊死]	1瓶		
	DAY2	生食100mL [30分中心静脈より点滴静注] ヨンデリス終了後から開始 ルート内洗浄	1瓶
	DAY2	生食50mL デキサート注 [30分中心静脈より点滴静注]	1瓶 6.6mg
生食注シリンジ10mL ポートフラッシュ [フラッシュ]	2本		

※ヨンデリスは溶解から30時間内に投与終了する。

DAY3(月 日)

薬剤名	投与量	
デカドロン錠	8mg	1x朝食後

[適正使用基準]

- 重症感染症またはその疑いがない
- 高度な骨髄抑制がない
- 肝機能障害がある
- 心疾患の既往がない
- PS (Performance Status) が0~2である
- 生理機能が十分に保持され、下の基準を満たす。

[投与開始基準]

血液一般検査	NEUT (/μL)	1500 ≤	
	PLT (/μL)	10万 ≤	
	HGB (/μL)	9.0 ≤	
血清生化学検査	Alb (g/dL)	2.5 ≤	
	GOT (IU/L)	施設基準値上限の2.5倍以下	
	GPT (IU/L)	施設基準値上限の2.5倍以下	
	ALP	施設基準値上限の2.5倍以下	
	CK	施設基準値上限の2.5倍以下	
	T-Bil (mg/dL)	≤ 1.5	
Ccr (mL/min)	≥ 30		

[減量基準]

項目	減量基準
好中球数	500/mm ³ 未満が6日間以上持続するまたは500/mm ³ 未満で発熱・感染を伴う
血小板数	25000/mm ³ 未満
総Bill	1.5mg/dLを超える
GOT(AST) GPT(ALT)	投与後21日目以降に施設基準値上限の2.5倍を超える
ALP	施設基準値上限の2.5倍を超える
非血液毒性	グレード3 (CTCAE version4)以上

[減量の目安]

減量段階	投与量
通常投与量	1. 2mg/m ²
1段階減量	1. 0mg/m ²
2段階減量	0. 8mg/m ²

[DLFを除く重大な副作用]

《ヨンデリス》

- ・肝不全、肝機能障害
- ・骨髄抑制、感染症
- ・横紋筋融解症 (CKの上昇、筋肉痛、手足のしびれ、脱力感、赤褐色尿)
- ・心機能障害
- ・注射部位反応
- ・重篤な過敏症